



Report 1 子どもたちも福祉活動に貢献 アルミ缶分別作業に参加

夏休み中の放課後児童クラブ活動として児童 50 人が 8 月 29 日、アルミ缶福祉活用の会（事務局：庄原市社会福祉協議会東城地域センター）が収集したアル



ミ缶の分別作業に参加しました。

児童たちは、集められた 300kg のアルミ缶に混入している、スチール缶やビンなどを一つ一つ確認しながら、約 1 時間かけて手作業で分別を行いました。「割れた皿などが入っていて危ないと思った」「みんなで協力して福祉の役に立てて良かった」と額に汗を光らせていました。

年間を通じて分別作業には、地域の小学生やその家族・放課後児童クラブ・女性グループなどが参加しています。収益の一部は車いすの購入や東日本大震災の義援金、8月に発生した広島県大雨土砂災害の義援金としても役立てられました。

◀アルミ缶の分別作業をしている放課後児童クラブの皆さん

Report 2 赤いスタンドに向け「がん検診」をPR マツダスタジアム啓発イベントに庄原市も応援参加

プロ野球公式戦、広島東洋カープ対中日ドラゴンズが行われた9月11日、マツダスタジアムでがん検診の普及啓発や受診率の向上を呼びかける啓発イベント



▲がん検診をPRするゆるキャラたち

が行われました。

当日は、県や市、医療関係者、民間企業などさまざまな団体によって構成される「がん検診へ行こうよ」推進会議が、入場口となる各ゲートと「ごりら広場」で来場者の皆さんに啓発グッズを配布しながら、がん検診の大切さをPR。5回裏にはグラウンド内に登場し、広島県がん検診啓発特使の「デーモン閣下」とともに、スタンドを埋める大勢の観客に向け、がん検診を受けるよう呼びかけました。

球場には庄原市PRロゴマークキャラクターの「ヒバゴン」や、高血圧予防キャラクターの「ショーショー鳥」も応援にかけつけ、他市町のゆるキャラたちや広島東洋カープのマスコット「スライリー」と一緒に会場を盛り上げました。

Report 3 一緒に作ると顔もほころぶ 料理で世代間交流会



▲老人クラブの方に教わりながらおはぎを作る子どもたち

総領放課後子ども教室と総領町老人クラブによる料理教室が8月25日、総領健康福祉センターで開催されました。

参加した子どもたち 12 人と老人クラブのメンバー 11 人が一緒になって、三色おはぎ、そうめん汁、酢の物の3品を調理。初めておはぎ作りに挑戦した子どもたちは、もち米をあんこで包む作業に悪戦苦闘しながらも、老人クラブの皆さんからうまく包むコツを習い、あんこ、きなこ、青のりの3種類のおはぎを完成させました。

参加した子どもたちは「おはぎがおいしかった」「難しかったけど、教えてもらって上手に出来た」と話し、きれいに出来上がったおはぎに満面の笑顔を浮かべていました。



Report 7 希少な花とご縁を守り続ける ぼにばな縁日会

ぼにばな縁日会が8月31日、比和町三河内慶雲寺周辺で行われました。

比和町では、ヒゴタイやオミナエシなど秋の七草を「ぼにばな（盆花）」と呼び、お墓に手向けていました。国の絶滅危惧種となったヒゴタイをお墓に手向ける文化としても大切に守り育て、それによってつながった多くの人々との縁を大切にしたいという想いから毎年実施されています。

古民家を会場に開かれたお茶会では、本格的な抹茶

を自分でたてて飲めたり、お湯の代わりに甘酒でたてるといった一風変わった抹茶も味わえたりと、参加者は日本の伝統文化である茶道を興味深く体験していました。

午後から行われた慶雲寺でのイベントでは、三河内に戦国時代から伝わる庄原市指定無形民俗文化財「三河内刀踊り・扇踊り」が披露。庄原シティホールライブ楽団の生演奏にヴァイオリニストの永井匠子さんもスペシャルゲストとして加わり、ヴァイオリンの豊かな響きとバンドのハーモニーが会場を包み込みました。



▲伝統の扇踊り



▲お茶をたてる参加者

Report 8 過去の歴史を学び、新たな友好関係を築く 高暮ダムで平和の集い

今年で14回目となる「高暮平和の集い並びに追悼碑前祭」が9月14日、高野町の高暮ダム朝鮮人追悼碑前で行われ、在日朝鮮人の方をはじめ、広島県高等学校平和ゼミナールや広島朝鮮初中高級学校の学生、主催した高暮自治会の皆さん約80人が参加しました。

戦時下にあった昭和14年、緊急発電用ダムとして建設が始まった高暮ダムには、国内の労働力不足を補うため約2,000人の朝鮮人労働者が強制連行され、多くの労働者が危険の伴う過酷な現場での作業中に犠

牲になるなど、悲惨な歴史がありました。その後、高暮ダムは終戦後の昭和24年に完成しました。

式典では、慰霊碑へ献花や「アリラン」の合唱が行われ、参加者は犠牲になった朝鮮人労働者と戦没者の方々、ダム建設によって故郷を追われた方の冥福を祈りました。

式典後は宿泊研修施設ふるさと村高暮で交流会が開催され、食事を囲みながら互いの友好を深めました。



▲広島朝鮮学校代表による平和の誓い



▲広島朝鮮学校生徒による献花



▲高暮ダム建設当時の様子

Report 4 地域医療について考える 市民公開講座「地域医療講演会」

医師不足を始めとする地域医療の問題・課題について考える「地域医療講演会」が9月5日、ウイル西城で開催され、地元住民を中心におよそ200人が来場しました。



▲講演する荒木理事長

西城町出身で西城市民病院の専門外来でも診療している荒木脳神経外科病院の荒木攻理事長が、「医療人に市民は何を期待するのか」と題して講演。

講演の中では、医療人としての姿勢について述べた後、自身の経営する病院を例に挙げながら、近年の医療情勢をとりまく変化について紹介。また、「“チーム医療”がこれからのキーワード」とし、医療にかかる各専門分野の壁を越えたスタッフの連携が必要であると語りました。

来場者からは「他人事にせず考えることが大切」「医師を地域ぐるみで支えることが必要」などの声が上がリ、医療従事者からは「職員間で患者の目線に立った医療を担うという目的を共有し、それに向かった仕事をしたい」「医療従事者も、よりいっそう学ぶ姿勢が必要」といった声がかげ、それぞれの立場で地域の医療について改めて考える機会となりました。

Report 5 災害に負けない地域をつくる 口和自治振興区が防災マップ作成中

口和自治振興区による第2回手作りマップ説明会が8月31日、口和自治振興センターで行われました。

自然災害被害の減少を目指すため、同振興区の環境福祉部が中心となり、口和地域の危険地域や避難経路などの情報を盛り込んだ、防災マップ作成事業に取り組んでいます。

この日は各自治会の役員や消防団員約50人が集まり、防災マップ作成アドバイザーで減災塾塾長の籠田純士（かごたじゅんじ）さんから、マップを作成する際の注意点などの説明を受けました。

今後は危険地域を実際に見て回り、過去の被災地域やいい伝えなどの聞き取りなどを行うなどして今年中にマップの完成を目指します。完成後にはマップを活用した訓練を実施する予定です。



▲真剣に取り組む参加者

Report 6 クラシックカーで交通安全をPR 秋の全国交通安全運動

秋の全国交通安全運動の一環として、交通安全東城大会・車両パレード出発式が9月21日、市役所東城支所正面駐車場で開催されました。

開会式で、東城交通安全協会会長の長谷時男さんが「1件でも交通事故を減らせるよう取り組んでいきたい」とあいさつし、交通安全宣言が行われました。

開会式終了後、同安全協会が中心となり、参加した人や、町内のショッピングセンター、道の駅に訪れている人に信号をかたどった3色餅を手渡し、交通事故防止を呼びかけました。

また、車両パレードでは、例年の広報車、軽トラ、事業所の

車両、パトカーに加え、初めてクラシックカー15台が参加し、総勢28台の車両が町内を2班に分かれてパレード。普段あまり見ることのない車を見た子どもたちは興味津々で、「見たことのない車がかっこよかった」と喜び、子どもから大人まで交通安全意識の向上につながる一日になりました。



▲開会式の様子



▲クラシックカー